

まつやま支部だより



ミランクラブジャパン松山支部
支部長 奥川 睦

ナマステ

以前支部便りで身辺整理を報告。以来心ひそかに時を経ず元気な報告ができるかな？ などともくろんでいたのです。精神が物から解き放たれ、自由の空気を肺いっぱい吸い込み爽快です... といった。

2018年4月26日 愛媛新聞より

でもそうは問屋が卸しません。いっこうに暇は増えませんし、気持ちの良い勇気の湧く報告ができるには程遠く、相変わらずのドタバタ人生です。

ここにある新聞記事を見つけ、松山でもこんな行事がと紹介を思い立ちました。

ネトラさんも頑張っ居られます。

創立30周年記念パネル展も開催されている頃ですね。準備その他ご苦労様でした。

ネパール地震 現況報告

愛媛大発生3年復興テーマに

ネパール地震発生から3年が経過した25日、愛媛大山市文京町の同大で復興を



ネパール地震の復興状況を話す愛媛大防災情報研究センターのネトラ・バンドリ副センター長。25日、松山市

テーマに講演会を開いた。1月にネパール地震工学会会長に就任したネトラ・バンドリ副センター長が、現地の歩みと現況を話した。

ネパール地震による死者は約9千人、全半壊した民家は約78万棟に上るとされる。バンドリ副センター長は寺院や集落被害を写真で振り返り、カトマンズ盆地では地盤特性から長周期の揺れが起き被害が拡大、山村部では土やれんが造りの

もろい家が崩壊したと報告した。

また国の防災計画が不十分だった上に、政治的混乱が重なり、復興が著しく遅れたと指摘した。最近では復興庁を中心とした体制で、建物再建の技術・金銭的支援が進み、各地区で「地域復興委員会」が発足。「住民が自分たちで学び、助け合う仕組みができてきた」と話した。

(高橋舞)